

臨床活動報告 — 4 —

商店街を拠点とした健康で安全安心な街づくりの実践

—「健康をサポートする商店街」を目指した古川町商店街振興組合との協働—

星野 明子*, 桂 敏樹*, 山本 昌恵**, 辻本 晶子***

I. は じ め に

東山区は高齢者人口割合が28.9%と京都市の21.8%を上回り、最も高齢者が住む割合が多い地域である。また、独居世帯、高齢者のみ世帯も多い¹⁾。著名な寺社の多い東山区には多くの商店街が存在し、観光型と生活密着型の2つのタイプに分かれる。我々が「すこやかサロン（以下、サロンとする）」を開設した古川町商店街は、生活密着型の商店街として、「東の錦」と呼ばれ古くから周辺地域の人々に親しまれている。

我々は、サロンを商店街空き店舗に2005年9月より開設し（週3回）、小地域における中高年の生活習慣病予防および介護予防のための支援システムについて検討している²⁾。サロンの開設の際には商店街振興組合の理事会で了承を得た経緯があり、その後、商店街と「古川町商店街健康講座」の開講などで協働してきた。

本報告では、2006年7月～2007年3月に商店街振興組合と協働した「健康をサポートする商店街事業（以下、健康サポート事業とする）」について報告する。

II. 活 動 内 容

我々は、サロンの活動を通して関係を作っていた商店街振興組合より、2006年度の商店街の活性化を目指した府の補助事業の活動を実施するにあたり助言を求められた。商店街の若手理事らを中心に「健康サポート委員会（以下、委員会とする）」が組織され、我々もメンバーの一員として加わった。健康をサポートする商店街の活動について述べる。

1. 健康をサポートする商店街

2006年7月に振興組合理事会の了解を経て、京都府

の商店街活性化を目的とした補助事業を具体化するために若手の商店主を中心とした委員会が組織された。研究者らは委員会へのメンバーとしての参加を依頼され、「健康・安全・安心」をキーワードにした活動展開について提案した。その後、数回の打ち合わせを経て、「健康・安全・安心」が活動方針として採択され、①エコ買い物袋の作成、②健康サポート商品プレートの作成が決定した。

委員会は「健康サポート事業」の活動方針と具体的な活動について、「商店街店主に向けた説明会を実施して協力を呼びかけた。また、顧客に対しては、「健康をサポートする商店街」というB4大の手作りの広報板を商店街アーケード内に掲示することとなった（図1）。広報板の挿絵のアイデアや、高齢者の顧客が多いことを配慮した低い位置への掲示などの工夫について会議を重ねた。

2. エコ買い物袋の作成

エコ買い物袋の作成について委員会による検討を重ねていった。デザインには「健康をサポートする商店街」としてのメッセージを盛り込むことになった。メッセージ原案は我々が提案し、理事の一人がデザインを担当した。メッセージには、片面に「Welcome to healthy living “Furukawacho” Shopping Ave., We have healthy lifestyles, Safety and health promotion」とし、もう一方の面には商店街の地図を掲載した（図2）。

また、買い物袋のマチの部分には、健康サポート商品について「各店舗はお客様や地域住民の健康をサポートするために、商品に関する健康ひとくちメモをボードに示し健康情報を発信しています」と書き込んでいる。エコ買い物袋は、12月と2月に、各店舗より顧客に無料で手渡された。

3. 健康サポート商品プレートの作成

健康サポート商品は、商店のほとんどが食品を扱っていることを考慮し、9～3月までを3区間に分けた3品を選定した。商店主は店頭で扱っている代表的な商品を選択し、商品についての健康ひとくちメモに載せたい内容も記入してもらった。商品プレートにつける健康ひとくちメモの内容については、最終的に研究者らが確認したうえで作成した（図3）。

* 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻予防看護学分野

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53

Human Health Sciences, Graduate School of Medicine, Kyoto University

** 京都大学医学部保健学科非常勤講師

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53

Health Sciences, Faculty of Medicine, Kyoto University

*** 神戸大学発達科学部

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

Kobe University

受稿日 2007年11月19日



図1 健康サポート委員会と商店街の様子



図2 エコ買い物袋

Ⅲ. 考 察

健康サポート商品プレートの作成では、商店街のほとんどの店舗が参加し（商品を選定する）（商品の推薦理由と健康情報を記述する）ことを3回経験している。A果物店では、梨、柿、みかんを商品として選定し、商品の健康ひと口メモの原稿は回数を重ねるごとに栄養価についての記述が詳しくなっていた。他の商店主たちも、健康サポート事業の体験をとおして、健康ひと口メモの内容が健康を意識した記載内容へと変化していた。また、顧客とのやりとりのなかで、商店主たちからは、「プレートに書いてある内容を見て、試しに買って欲してくれる人もいる」や、「プレートに書いてある“健康ひと口メモ”を来客者との話題に

することが多くなった」という感想がよせられた。B店の店主は「来店する高齢者のお客さんが眠れない、腰が痛いなどの話題が多い」「話を聞いてじっくり対応することも必要かと思う」など健康サポート事業の間に改めて気づいた感想を述べていた。田村³⁾は住民主体の活動について、市民の関心から始まり、市民協働・市民主体の街づくりへとすすむプロセスが市民参加であり、実践の中で市民が加わると市民参加の自覚が高まると述べている。古川町商店街の健康サポート事業を進めていく過程で、（商品を選定する）（商品の推薦理由と健康情報を記述する）という実践体験が、商店主たちの主体的な参加を促したと考える。

健康サポート事業は、いままでの理事会主導の活動とは異なり、商店街の若手理事を中心に組織された委



図3 店頭に表示された健康サポート商品のプレート

員会によって企画・運営された。委員会では活発な意見交換がみられ、手作り広報板の作成や掲示，エコ買い物袋のデザインが実現し，若手を中心とした組織の活性化が図られている。

「健康・安全・安心」を活動方針にして，その過程で商店街の商店主や委員会若手理事らが主体となった活動の展開がみられた健康サポート事業は，商店主や委員会の若手理事たちによる地域活性化を自ら支配する力を得るための social-action プロセスであり，商店街のエンパワーメントと考えることができよう。また，こうした商店街の活動は，今後周辺住民へと影響していくものと思われる。ヘルスプロモーションのためのパートナーシップをすすめることによって，地域が力を得る・エンパワーメントされる⁴⁾とあるように，商店街のエンパワーメントは，商店街の店主・理事会・若手を中心とした委員間のパートナーシップが形成されたことによると考えられる。研究者らは「事

業展開の立案（健康プレート作成など）」に委員会メンバーの一員として専門的立場から健康サポート事業に協力してきた。商店主たちと研究者らのパートナーシップの進展が商店街のエンパワーメントをさらに促したものと考ええる。

文 献

- 1) 京都市：統計解析 京都市の高齢者人口，統計解析，2007；No. 11
- 2) 星野明子，桂 敏樹，山本昌恵：人口空洞化地域における高齢者の自立支援のためのサテライトシステムの構築—商店街空き店舗に設置した「健やかサロン」の開設と活動状況—，日本農村医学会雑誌，2006；55(4)：402-407，
- 3) 田村 明：まちづくりの実践，岩波書店，1999
- 4) Nola J. Pender：ペンダーヘルスプロモーション看護論，日本看護協会出版会，1997